令和X年度　先端医療技術開発センター共同利用提案書（トレーニング申請例）

令和X年X月X日

自治医科大学

先端医療技術開発センター長　殿

以下の提案による共同利用施設の利用を希望します。

1. 課題情報

　(1) 課題名：ピッグを用いた緊急外傷手術トレーニング実習

　(2) 代表者

　①所属・氏名：～大学〜学部〜教室　自治医太郞

　②連絡先(電話番号・e-mail)：・・・

(3) 本学内の共同利用者　　■有　□無

共同利用者の氏名・所属講座・e-mail：先端医療技術開発センター医療技術トレーニングコア　遠藤和洋　kendo@jichi.ac.jp

　(4) 申請区分：　　　　　■　新規　　　　□　年度更新

　(5) 利用期間：　令和　X年　X月　X日　から　令和　X年　X月　X日　（最長3年）

　(6) 利用区分　　□ 研究　　■ 医療教育・技術トレーニング

2．提案の概要

(1)背景および目的　※ピッグを用いる必要性がわかるように記載してください

　外傷手術は緊急性が高く、その迅速性が患者の救命に大きく影響する。特に緊急外傷手術では、医師、看護師を含めたチームで迅速に処置を行う必要があり、外科治療手技のみにならずチーム間のコミュニケーションが重要となる。緊急外傷手術は実臨床での修練が困難である。そのため、医師、看護師を含めた医療スタッフの育成が課題となっている。現在、多様な外傷手術トレーニングを実施し得るシミュレーションモデルは存在しない。中型実験動物であるピッグは、人体と臓器サイズや解剖が近く外科トレーニングに適切である。

(2)方法の概要

　外傷治療に関わる外科医師及び看護師を対象とする。指導医として救急指導医をインストラクターとする。初めに座学による手術手技およびトレーニングについての講義を行う。その後にピッグを用いたトレーニングを実施する。具体的なトレーニング内容は①消化管吻合術②固形臓器損傷修復・摘出術③心血管損傷部修復術などを実施する。外科医と看護師はチームとして参加し、ノンテクニカルスキルの向上を図る。トレーニング終了後にピッグは犠牲死させる。インストラクターによるパフォーマンス評価とフィードバックを行い、参加者の多様な技術レベルに合わせた指導を行う。また、実習後に質問表調査を実施しトレーニング内容並びに参加者の医療技術向上と満足度を評価する。

(3)予想される結果・効果とその意義

　本トレーニングの実践により、外傷手術に関わる医師・看護師が、テクニカルスキル並びにノンテクニカルスキルの向上がする。その結果として、緊急手術を必要とする患者の救命率の向上が期待される。本トレーニングの継続的実施によって、全国の医師・看護師のスキル向上によって日本全体の救急医療のレベル向上をはかる。医療に求められる社会的要望をみたすため重要な意義がある。

3. 本学の承認：　※本計画に必要だが提案時に未取得の場合は□未にチェックを入れてください。

(1) 動物実験（許可番号：XXXXXX　　　　　　 ）　　　　□未

(2) 遺伝子組換え実験（許可番号：該当せず　　　）　　　　□未

(3) 臨床研究（許可番号：該当せず　　　　　　 ）　　　　□未

4．その他（ご自由にご記載ください）

（継続提案の場合）

　本トレーニングには、昨年度医師１０名、看護師１０名が参加した。質問表によって９０％の参加者が自信の医療技術が向上したと回答している。

（新規提案の場合）

　本トレーニングの結果に関しては、学会（日本外科学会、日本救急医学会など）で発表する予定である。